

# RICOH REPORT

2024  冬号

**RICOH**  
imagine. change.

証券コード：7752

Contents	1	トップインタビュー
	5	トピックス
	6	株主様向け企画のご案内
裏表紙		IRメール配信登録のご案内／株主メモ

常に進化し続ける会社であること、  
それが私の描く未来のリコーです。

代表取締役  
社長執行役員・CEO 大山 晃



## 1 2024年度上期の業績と今後の見通しについて教えてください。

世界経済は底堅い成長を維持しているものの、金融政策の変化や、ロシア・ウクライナ情勢等の地政学リスクなどもあり、先行きの不透明な状態が続きました。

このような状況の中、2024年度上期の売上高は1兆2,025億円となり、前年同期比で8.1%増加しました。

デジタルサービスでは、お客様のプリント量の減少傾向が続く欧米を中心にオフィスプリンティングの売上高に影響が出ましたが、成長分野と位置付ける

オフィスサービスが国内外とも引き続き伸長し、全社の売上高の成長を牽引しました。特に、オフィスサービスのストック売上高は前年同期比で16%増加と伸長しており、収益基盤を着実に確固なものとしています。

地域別では、国内は法改正対応やセキュリティ関連などのデジタルトランスフォーメーション需要を捉え、スクラムシリーズが引き続き高い伸び率で伸長するなど、オフィスサービスを中心に売上高が前年同期比で8.9%増加しました。

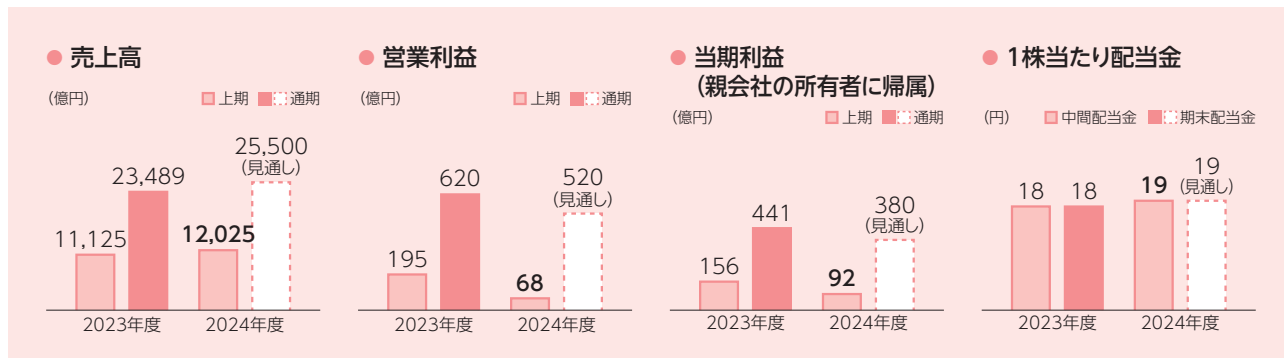
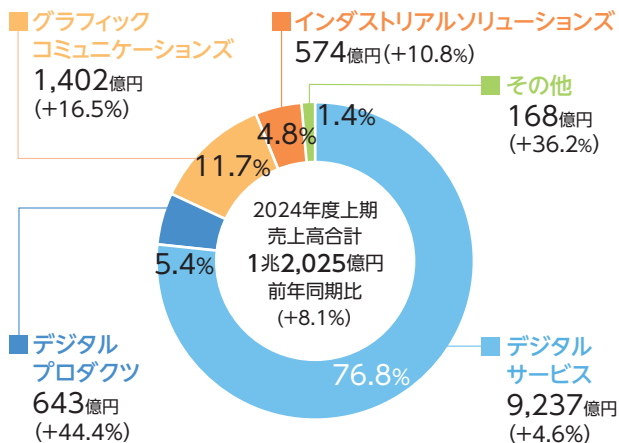
海外では、米州において、グラフィックコミュニケーションズの商用印刷が新製品の拡販などによりハード・ノンハードとも増収するとともに円安の影響もあり、売上高が5.3%増加しました。欧州でも同様に、商用印刷が好調であったことに加え、オフィスサービスで買収したITサービス会社の成長により売上高が前年同期比7.2%増加しました。

2024年度は、デジタルサービスの会社として相応しい収益構造への体質転換に向けて、企業価値向上プロジェクトによる各施策を遂行する年と位置づけています。上期には国内でのセカンドキャリア支援制度の実施や事業の「選択と集中」を進めるなど、施策の追加を決定したため、2024年度内で新たに一時費用230億円を追加計上することとしました。これを受け、当年度中に刈り取る効果なども踏まえ、

通期の業績見通しは売上高2兆5,500億円、営業利益520億円に修正いたします。

### 事業別売上高 ※外部顧客向け

売上高（前年同期比）



業績ハイライト 詳しくはこちらをご覧ください ▶ <https://jp.ricoh.com/IR/graph/graph04>



# 2 デジタルサービスの会社への変革に向けた取り組みとその進捗について教えてください。

デジタルサービスの会社に変革する上で、オフィスサービスの成長を最も重要と位置づけています。当社の事業領域や顧客層は、世界的な大手IT企業が得意とする分野とは異なります。当社が目指す姿は、変容していくワークプレイスにおいて、グローバルで均質なサービスを提供できる「ワークプレイスサービスプロバイダー」です。オフィスプリンティングで培った世界140万社の顧客基盤と顧客接点をグローバルで有しており、これらはオフィスサービスの成長における大きな強みとなります。

さらに、多様な技術の蓄積である自社IP(知的財産)や、戦略を推進するデジタル人材も価値創造の源泉となっています。これらの強みを踏まえ、3つの注力領域を定めました。特に①プロセスオートメーション、②ワークプレイスエクスペリエンスは継続的に大きな成長が見込める成長領域としています。

### 注力領域

#### 成長領域

##### ① プロセスオートメーション

単純作業を減らし生産性の向上・新たな価値の提供

##### ② ワークプレイスエクスペリエンス

コミュニケーションの環境構築を支援・最適な働く空間を提供

##### ③ ITサービス

ワークプレイスの基盤を提供・構築支援

まず成長領域①のプロセスオートメーションでは、働く人が“人”ならではの創造力を発揮する仕事に時間を使えるようにするため、AIなどの技術を活用して単純作業を極力自動化することが必要です。4月にはnativ.ai社を買収し、インテリジェントキャプチャーと呼ばれるAIを活用した先進的な画像認識やOCR(Optical Character Recognition)の技術を獲得しました。紙文書や手書き文書を含むさまざまなドキュメントからの情報抽出機能を強化し、幅広い業務プロセスにおいて自動化・高度化を実現します。既にこの技術について、自社ソフトウェアのDocuWareと組みあわせた統合ソリューションの開発や、多言語化を含めたグローバル展開に着手しています。

次に成長領域②ワークプレイスエクスペリエンスでは、働く場所にとらわれることなく、人と人が有機的につながる効果的なコミュニケーションや質の高いコラボレーションを実現するための最適な環境を構築し、維持することに注力していきます。この領域においても2022年に買収したCenero社のノウハウと、リコーグループの顧客接点力を組みあわせながら、複数国にまたがる拠点の会議室を一括管理する大型商談の獲得も進んでいます。

そして③ITサービスでは、ワークプレイスの基盤となる情報通信・セキュリティ・データ管理の環境を

構築します。

これらの注力領域に経営資源を集中し、デジタルサービスの売上高比率を高めていくことは、リコーグループにとって極めて重要です。安定した収益源となるストック売上高の拡大につなげていきます。

お客様の課題や、その課題を解決するための技術や価値提供の仕方は常に変化しています。その変化の中において生まれる新たな課題を解決するために、これからもお客様とともに進化を続けていきます。

加えて、社員一人ひとりも進化していくことが重要です。デジタル人材の育成は、デジタルサービスの会社への変革において最も加速させるべき課題の一つであり、リスクリングなどさまざまな施策を展開しています。デジタル人材育成のために、自律的なキャリア支援や学習環境の提供を進めると同時に、ビジネスニーズからの育成計画も策定することで、全社員のスキル向上と事業成長のため、新たなポジションの設定を進めています。また、お客様のニーズ

が多様化し、技術の進化が急激に進んでいる中、社員一人ひとりが自ら考え、行動することは必要不可欠です。社員の自主性・自律性を発揮できる環境を整えることで、より多くの顧客価値の創造につなげ、デジタルサービスの会社への変革を推進します。

そして、多様性を尊重する企業風土も企業成長には欠かせません。私が海外で約20年間仕事をしてきた中で、17年間は欧州での駐在でした。国も違えば言葉や文化も異なる多様性に富んだ組織で、議論を尽くして意思決定し、ビジネスを前に進めるという経験を重ねてきました。

この経験を通して、多様性こそがイノベーションを生み出していくことを確信しています。自律型人材の育成と同時に、多様性を活かした組織づくりも推進していきます。常に進化し続ける会社であることが、私の描く未来のリコーであり、その実現に向けてまい進してまいります。

### 3 今後の株主還元について教えてください。

2024年度の配当については、1株当たり2円増配の年間38円を予定し、中間配当は19円としました。

総還元性向\*50%を目安とした上で、配当利回りを意識し毎年利益拡大に沿った継続的な増配を目指します。

2024年8月までに、300億円の自己株式取得を実施しました。今後も経営環境や成長投資の進捗も踏まえつつ、最適資本構成の考え方に基づき、機動的かつ適切なタイミングで自己株式取得も実施しながら、企業価値最大化を目指してまいります。

\*総還元性向：(配当支払総額+自社株買い総額)÷純利益×100

## トピックス

### 成長領域 ① プロセスオートメーション

#### AIソリューションの提案力を向上させる、 新たなLLM\*を開発

労働人口の減少を背景に、多くの企業がAIの業務活用に注目しています。AIを実際の業務に適用するためには、企業固有の用語や言い回しなどを含む大量のテキストデータをLLMに学習させ、その企業独自のAIモデルを作成する必要がありますが、当社は独自のLLM開発・学習技術をベースに、高性能な日本語LLMを新たに開発しました。この新たなLLMを活用し、さまざまなAIソリューションの提案を加速していきます。

\*Large Language Model(大規模言語モデル):「自然文の質問への回答」や「文書の要約」といった処理を人間並みの精度で実行でき、学習も容易にできる技術

詳しくはこちらをご覧ください▶

[https://jp.ricoh.com/release/2024/0930\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/0930_1)



### 成長領域 ② ワークプレイスエクスペリエンス

#### LGとコミュニケーション環境構築支援に向けた グローバルパートナーシップに合意

当社は、お客様のコミュニケーション環境構築や最適な働く空間の提供を戦略的に強化していく施策の一つとして、韓国LG Electronics社(以下、LG)と、ワークプレイスのデジタルソリューションに係る連携に関する基本合意書を締結しました。LGの提供するディスプレイやサイネージなどの高品質な機器を当社のソリューションへ組み込むことで、製品・サービスのラインアップ強化を図るとともに、グローバルでの安定的な供給を実現し、お客様のコミュニケーション環境構築を支援していきます。

詳しくはこちらをご覧ください▶

[https://jp.ricoh.com/release/2024/0919\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/0919_1)



## ESG トピックス

#### 「リコーグループ統合報告書2024」、 「リコーグループ環境報告書2024」 および「リコーグループESGデータブック2024」を発行

企業価値向上に向けたサステナビリティ活動への関心の高まりと情報開示拡充の期待を受け、3つの報告書を発行しました。報告書を通じて、中長期の展望や企業価値向上に向けた取り組みの全体像、環境・社会・ガバナンスに関する具体的な取り組みや実績データなどの詳細情報をお伝えしています。

2024年度は、これまで「リコーグループTCFDレポート」と「リコーグループサーキュラーエコノミーレポート」の2つのレポートで開示していた内容に、生物多様性の観点を加え、「リコーグループ環境報告書」として1つのレポートにまとめています。

今後も積極的な情報開示を進め、リコーグループへの理解を深めていただくとともに、経営品質を向上し、事業成長を図ることで、さらなる企業価値向上に努めます。

詳しくはこちらをご覧ください▶[https://jp.ricoh.com/info/2024/0906\\_1](https://jp.ricoh.com/info/2024/0906_1)



## 株主様向け企画のご案内

当社の企業活動をご理解いただくことを目的に、株主優待・企画を行っております。（基準日：2024年9月末）

### 1 リコーのデジタルサービス説明会(オンライン) ーリコーのデジタルサービスの勝ち筋ー

抽選

株主様アンケートにこんなお声をいただいています



**株主様のなぜ?なに?にお答えする説明会**を開催します

開催日 2025年1月15日(水) 午後 オンライン方式 1時間程度の予定

対象者 当社株式を単元100株以上保有されている株主様 (100名様限定)

※応募者が多くなった場合には、抽選となる可能性があります。  
※ご当選者のみ、お申し込みの際にご登録いただいたメールアドレス宛にご案内します。

応募要領 当社ウェブサイトの専用応募ページよりお申し込みください。  
URL ▶ [https://webform.rioh.com/form/pub/e00034/ir\\_event](https://webform.rioh.com/form/pub/e00034/ir_event)



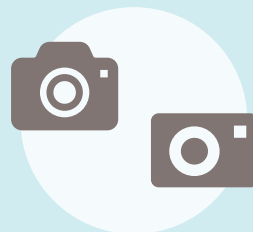
応募締切 2024年12月11日(水) 24時まで

### 2 グループ製品優待販売のご案内 **全株主様**

内容 リコーイメージング(株)製品(カメラなど)の優待販売

対象者 当社株式を保有されている株主様

応募要領 同封の優待販売のチラシをご覧ください。



## IRメール配信登録のご案内

株主の皆様へ決算情報やニュースリリース、そのほかのIR情報を電子メールでお知らせしています。ご希望の方は、当社IRウェブサイトよりご登録の手続きをお願いします。

「リコー IR」で検索し、IRウェブサイトへ

リコー IR **検索**

こちらよりご覧ください▶

※ 本サービスは携帯電話メールには対応していません。



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
単元株式数	100株
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿 管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL (0120) 782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の 全国各支店で行っております。

### ●住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、特別口座にて株式を管理されていらっしゃる株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。

### ●「配当金領収証」の送付について

従来、配当金のお支払金額が5万円以上の場合に簡易書留で郵送させていただいておりましたが、2020年9月30日基準の中間配当金の送付より、配当金のお支払金額が10万1円以上の場合に簡易書留での郵送とすることに变更させていただきます。

株式会社リコー

UD  
FONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

